

武蔵の小京都

～小川町の文化遺産～

第19期 国際・文化学部 B班



後列 ◎木村 輝美 平野 雅子 関口 喜明 柳澤 伴子
前列 小澤 恒介○木村 誠 木下 小夜子

目次

第1章 はじめに
第2章 小川和紙・細川紙そしてユネスコ無形文化遺産登録
第3章 仙覚律師と小川町
第4章 登録有形文化財と再生建物
第5章 まとめ

第1章 はじめに

小川町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、周囲を豊かな自然と外秩父の山に囲まれ、市街地の中央には槻川が流れています。盆地を形成していることに加え、和紙・建具・酒造・絹などの伝統産業で古くからの歴史・文化を備えていることから、「武蔵の小京都」と呼ばれています。1985年に設立された全国京都会議は「小京都」を名乗る承認条件として、以下の3点をあげています。

1. 山や川など京都に似た自然景観であること。
2. 文化と歴史を有すること。
3. 伝統産業・芸能が残されていること。

この地形と川を生かして古くから和紙、酒造などの産業を起こした小川町は、1300年の歩みを重ねた手漉き和紙の小川和紙があり、最高級品の細川紙がユネスコ無形文化遺産に登録されています。文化の面では、それまで難解で読めなかった万葉歌を仙覚律師が我国で初めて解説し、『万葉集注釈』が書かれた地であります。

文永6年(1269)、現在の小川町域の麻師宇郷(ましうごう)で成し遂げられたと言われていています。伝統産業では、小川和紙・絹・素麺は、いずれも良質な水が伝統産業を支えて来ました。

また、小川町には国登録有形文化財が数多く存在し、その一部はリニューアルされ有機野菜食堂及び地元産ワインバーなどに活用されて、人と人の触れ合いの場となり、賑わっていると言う事です。そのような小川町の歴史と文化の奥深さを学ぶことによって、改めて小川町の素晴らしさを再発見したいと思い、テーマの完成報告を行いたいと思いました。

第2章 小川和紙・細川紙そしてユネスコ無形文化遺産登録

1. 小川和紙とは

奈良の正倉院に保存されている正倉院文書には、宝亀5年(774)に武蔵国から「武蔵国紙480張」が納められたと言う記録が残されており、これが小川和紙に関わる最初の史料とされています。この紙漉きの技術を小川地域の人達に伝えたのは、およそ1300年前に武蔵国に移り住んだ高麗人と言われています。

また、小川和紙の始まりには慈光寺の創建が関わるとされ、慈光寺で使用された和紙は山麓に広がる村で漉かれたと考えられています。そして、紙の需要が増えた江戸時代後期には紙漉き屋が約750軒を越す大産地となり、「ぴっかり千両」の言葉が生まれるほどになりました。冬の日差しは値千金で村中が紙を干す白さに染まり大きな儲けになった所から生まれました。

一枚一枚丹念に漉く職人芸から生み出された手漉きの小川和紙には、「流し漉き」と「溜漉き」があります。加えて機械漉き和紙を誕生させ、それぞれに工夫を重ねて和紙の生産が続けられてきました。こうした小川和紙を代表するのが「細川紙」です。

2. 小川和紙の種類

| | | |
|---|--|--------------------------------------|
| 手漉き 1枚1枚手作りで漉きます。 | 流し漉き 竹簾(たけす)を使用し、リズムカルに簾桁(すげた)を動かして漉き、比較的薄い紙に仕上がります。 | 細川紙 雲龍紙 落水紙 ヤマトチリ紙 七夕紙など |
| | 溜漉き 金属の簾桁を使用し、ゆっくりまわすように漉き、比較的厚い和紙に仕上がります。 | 卒業証書 表彰状 色紙など |
| 機械漉き 大型機械で大量に和紙を製造します。 大きなサイズの和紙を作る事が出来ます。 | | 包装紙 折紙 ラベル用紙など |

3. 細川紙とは

細川紙は長く小川町周辺で生産されてきた手漉きの楮紙の代表で、その起こりは紀州高野山の麓、細川村で漉かれた細川奉書とされています。大阪商人を通じて江戸に持ち込まれると、強くて厚みと光沢があり、水に強かった細川紙は、商人の大福帳などに沢山使われるようになりました。そこで江戸の商人は近くでこの紙を手に入れるために紙漉きの里である小川地方の職人に細川紙を漉く事を促しました。これが成功し江戸の繁栄と共に細川紙は小川和紙を代表する紙となりました。

手漉き和紙の中でも最高の品質を誇るこの細川紙の技術が昭和53年(1978)に国の重要無形文化財に指定されました。その時、技術の保護と品質を守るためにその要件が厳しく定められました。それは国産楮だけを使い伝統的な製法と用具を使用して「流し漉き」で漉く、細川紙の風合いが保たれることなどがあり、熟練した技術が必要でした。この時「細川紙技術者協会」が組織され、技術の保持と継承に努めてきました。

4. 細川紙の製造工程

(1) 楮(かず)きり

細川紙は国産の楮(クワ科の植物)を原料とします。地元では「かず」と呼んでいます。収穫した楮は2尺(70cm)ぐらいに切りそろえます。



(2) 楮かしき・楮むき

楮を大きな蒸し釜の中に根元を下にして立てます。楮を蒸して表皮をむき取り易くし、蒸し上がるとすぐに表皮をむき取られます。



(3) 楮ひき

楮の黒い外皮を削り取って白皮にする作業で、黒皮や傷の部分をしていねいに取り除きます。良質な紙を作るために欠かせない作業です。



(4) 楮煮

楮を釜で煮ます。釜が煮立ったら、ソーダ灰を入れます。成分の炭酸ナトリウムには、白皮を柔らかくし不純物を取り除く効果があります。白皮の繊維は、一本一本ほぐれるようになります。



(5) 楮さらし

煮終えた白皮は、水につけて、あく抜きと日光漂白されます。篠竹で一本一本すくい上げ、ついているゴミや不純物をしていねいに取り除いていきます。



(6) 楮打ち

紙漉きのための材料になるよう、白皮の繊維をさらにほぐすために楮打ち棒で入念に叩きます。



(7) とろ叩き

もう一つの紙漉きに欠かせない材料に、ねりがあります。ねりとは、トロロアオイという植物の根を叩いて抽出する粘り気のある液体で、ねりは、楮の繊維を水の中で程よく分散させ、浮遊させる働きをします。紙漉きの課程では、繊維をお互いにつなぎとめる作用があり、粘着力がないので、乾燥の時には紙を一枚一枚はがす事が出来ます。



(8) 紙漉き

漉き舟と呼ばれる水槽に紙の原料となる漉き水(水、楮、ねり)をいれ、均等に分散させます。漉き桁に漉き水をすくい上げ、何度か流し込み、漉き簀(す)の上に均等に繊維が行きわたるように繰り返し揺らします。漉き上がった和紙は、かんだと呼ばれる紙床台へ移され一枚一枚積み重ね



られます。

(9) 紙干し

脱水した紙を一枚ずつはがし、紙板に貼り付け、天日で乾燥します。紙板で自然乾燥した紙には、板の木目が残るなど独特な風合いがありますが、今日では、鉄板で乾燥する事が多くなっています。



(10) 紙そろえ

乾燥し終わった紙は、室内で選別し、整えられます。無傷で上質な紙は一の紙、少しでもむらがあれば二の紙へと選り分けられ、一枚一枚ていねいに確認していき、全ての作業が終わります。



5. ユネスコ無形文化遺産登録

ユネスコは、平成26年(2014)11月27日に「和紙」の技術が無形文化遺産に登録することを発表しました。登録名は「和紙・日本の手漉き和紙技術」です。

無形文化遺産に登録されたのは、小川町と東秩父村に伝承され漉かれ続けてきた小川和紙の代表「細川紙」、島根県の「石州半紙」、岐阜県の「本美濃紙」です。無形文化遺産はその名の通り、無形文化が対象です。登録されたのは和紙そのものではなく、手漉き和紙を作る伝統の技術で、埼玉県における初のユネスコ登録となりました。

「人類が守るべき無形文化遺産の代表的な一覧」に記載された事で、細川紙を始め日本の和紙は世界に紹介されることになり、和紙の素晴らしさを広く世界にアピールしていかなければなりません。

第3章 仙覚律師と小川町

小川町の市街地の西側に延びる八幡台と呼ばれる台地に立つ「仙覚律師顕彰碑」。仙覚律師とはどのような人物で、どのような功績を残したのでしょうか。

1. 仙覚律師とはどのような人物か？

仙覚は、鎌倉時代の天台宗の僧侶です。彼は悉曇文字(梵字)や万葉仮名に詳しく、それを駆使して、難解とされていた『万葉集』の4,500首以上ある歌の全てを読み解き、初めての本格的な注釈書である『万葉集注釈』を完成させました。

仙覚は、建仁3年(1203)に「東の道の果て」で生まれたと言われていています。「東の道の果て」とはいったいどこを指すのか。二つの推測があります。

一つ目は常陸の国説。「東の道」を東海道とし、その終着点とする説です。仙覚が

生まれたその年は比企一族が北条氏の陰謀で滅亡した年で、仙覚は、比企能員の内室の子とする伝承があります。

二つ目は、**比企説**。鎌倉から見れば比企は「東の道の果て」になるとする説です。この説では、仙覚は比企能員の孫の員茂ではないか、と言われていています。父親の時員は比企の乱で自害しますが、母親は比企に逃れて出産し、その子を天台宗寺院岩殿観音に預けます。比企氏ゆかりの男子と分かると命の危険があるため、素性を隠して僧として生きたのではないかというのです。どちらの説も憶測にすぎませんが、このような伝承があるほど比企一族とは深い関わりのある人物と言われていています。

7歳で寺入りし、13歳から『万葉集』の研究を始めました。鎌倉四代将軍頼経の命を受け、44歳から、かつて比企氏の邸宅があった比企谷の新釈迦堂で『万葉集』の研究に打ち込みます。仙覚は、新釈迦堂の住僧で、頼家と若狭局の娘で頼経の妻である竹御所を弔いながら『万葉集』の研究をしたと言われていています。64歳の時、それまで全く読むことのできなかつた『万葉集』152首に新点を加えました。その後、難解な『万葉集』を後世に託すには解説書が重要であるとして編さんに取り掛かり、67歳で日本初の『万葉集注釈』を完成させました。今、私たちが『万葉集』を読んだり意味を理解したりできるのは、仙覚律師のおかげといっても過言ではありません。しかし、これだけの偉業を成し遂げながら、文永10年(1273)に、金澤実時に夏梨を献上する手紙が仙覚に関する記録の最後であり、没年は不明です。

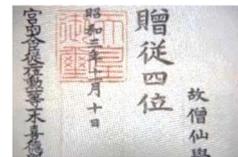
2. 仙覚律師と小川町との関わりは？

仙覚は、元々は鎌倉で『万葉集』の研究をしていましたが、その仕上げの場所として麻師宇郷（現在の小川町）にやってきました。そして文永6年(1269)この地で『万葉集注釈』を完成させます。仙覚は『万葉集注釈』の奥書に「武蔵国比企郡北方の麻師宇郷で書写した」と記しており、これによって麻師宇郷を管理する領主の館で『万葉集注釈』を完成させたことが分かります。

このことから、小川町が仙覚と『万葉集』のゆかりの地であるとして、昭和3年、「仙覚律師顕彰碑」が大塚の中城跡に建立されました。この年、昭和天皇即位の大礼にあたり、仙覚は従四位を追贈され、天台宗からは高僧の位である僧正の称号が追贈されました。



仙覚律師顕彰



従四位の追贈

3. なぜ、小川町だったのか！

- (1) 麻師宇郷に隣接する大塚郷に鎌倉大慈寺新釈迦堂領があった。
- (2) 小川は鎌倉への主要道「鎌倉街道上道」が通っていた。
- (3) 蒙古襲来など、喧騒の鎌倉を逃れ静かな小川の地を選んだ。
- (4) 紙すきの里である小川なら、清書に必要な和紙を容易に調達できた。
- (5) 小川は比企一族と関わりが深い。さらに、天台宗の古刹慈光寺（ときがわ町）があった。
- (6) 「東の道の果て」を比企説とすれば、仙覚の故郷である。

4. 仙覚万葉の里と散策のみち

小川町では、『万葉集』から 70 首の歌を選び、1 つ 1 つに解説とその歌にふさわしい小川の情景や花の写真を添えたモニュメントを作り、小川町駅から仙覚律師の顕彰碑までの道筋に設置して、万葉の時代に思いを馳せる「仙覚万葉の里と散策のみち」としています。

第 4 章 登録有形文化財と再生建物

今でも町家や洋館、石蔵などが町内に数多く残っています。熊谷から甲府までをつないだ秩父往還(旧国道 254)は、小川町を横断する目抜き通りであり、和紙や絹などを運ぶ商人が脚を休める宿場町として多くの商家が軒をつらねていました。今回は、かつてのこの町の商業の発展のあゆみを現代に残す、国指定登録有形文化財等の現状と今後の活用等について着目しました。

| No. | 指 定 | 名 称 | 場 所 | 記 事 |
|-----|----------|-------------|-------------|-----|
| 1 | 国登録有形文化財 | 田中家長屋 | 小川字上町 177 | 使用中 |
| 2 | 〃 | 割烹旅館二葉本館 | 小川町大塚 32 | 営業中 |
| 3 | 〃 | 割烹旅館二葉本店六六亭 | 小川町大塚 32 | 営業中 |
| 4 | 〃 | 旧玉成舎主屋 | 小川町小川 197 | 営業中 |
| 5 | 〃 | 旧玉成舎石蔵 | 小川町小川 197 | 営業中 |
| 6 | 国有形文化財 | 吉田家住宅 | 小川町勝呂 424 | 営業中 |
| 7 | 廃校校舎 | 旧小川小学校下里分校 | 小川町下里 824-1 | 営業中 |

1. 田中家長屋

木造 2 階建切妻造鉄板葺(ふき)で、道なりに屈曲した独特の造りです。1、2 階とも腰下見板張上部漆喰塗、小屋は二重梁(はり)和小屋、もと 6 軒長屋のうち 5 軒分が残り現在も使用されています。



2. 割烹旅館二葉本館

小川町駅からの駅前通りに西側に面して建つ、正面側は複雑な屋根構成で、2階には床の間と舞台が広がる70畳の大広間があり、吟味された建材とともに職人芸が随所に発揮された数寄屋風料亭建築です。メンバー全員で名物の「忠七飯」をいただきました。大変おいしかったです。



3. 割烹旅館二葉本店六六亭(ろくろくてい)

本館の東方、庭園内の池畔(ちはん)に建つ、逆Z字形の棟をもつ寄棟造で、棧瓦葺の平屋建です。内部は4畳半と8畳の客室2室等からなり、本館と同様銘木奇木を用いた数寄屋風離れです。



4. 旧玉成舎主屋

小川町はかつて養蚕・絹織物業で盛んでした。そのなかで旧玉成舎主屋は、養蚕改良を目指し養蚕伝習所として、明治21年(1888)に建築されました。伝習や品評会のほかに集会の会場としても利用され、昭和6年(1931)に現在地に移築しました。現在はリニューアルされ、1階に有機野菜食堂、2階にインドネシア雑貨店と地元産ワインの角打ちバーが入居し、賑わっています。



5. 旧玉成舎石蔵

昭和36年(1961)に建てられた大谷石を積んだ石蔵です。小川町では大正はじめ頃から緋染(ひぞめ)がはじまり、染色加工も発展しました。昭和の初め頃には関東における代表的な紅絹(もみ)として知られる



ようになりました。この石蔵は、絹の保管庫として用いられたと考えられ、文化価値の高い歴史建造物として評価されています。現在はカフェ&セレクトショップにリニューアルされています。

6. 吉田家住宅

享保6年(1721)に建築された、実年代のわかる県内最古の民家です。平成元年(1989)に国の重要文化財建造物に指定されました。入母屋造りで茅葺屋根を持つ大きな民家で、間取りが「三間広間型」と呼ばれる江戸時代の典型的な建物です。一般公開もされています。住宅の広間でいただく日本そばも格別ですよ!



7. 下里分校

下里分校は明治7年に開校後、昭和39年に現在の校舎を新築しましたが、児童数の減少に伴い、平成23年3月に廃校となりました。現在、校庭やトイレは常時無料開放しています。平成30年4月に用務員棟がリノベーションされ「分校カフェ」としてオープンしました。小川町の有機野菜の日替わり「下里定食」は一食の価値があります。



第5章 まとめ

1. おわりに

武蔵の小京都と呼ばれている小川町は、古くから長い歴史と文化を育んだ場所であり、紙・酒を始めとした伝統産業を継承している所でもあります。仙覚律師は『万葉集注釈』を小川町域の麻師宇郷で完成させたと言われています。

今日では、国登録有形文化財である建物を行政・民間・地域の連携により、地域

の木材を用いるなど、地域循環を意識した町づくりを進めています。町の歴史と文化とは、あくまでも人間が作って行くと言うことです。

短い期間でありましたが、課題研究で施設を訪問した際、お世話になった方々には紙上を借りて御礼を申し上げたいと思います。

2. 活動記録

| No | 月日 | 場 所 | 内 容 |
|----|-------|----------|------------------------|
| 1 | 1/26 | きらめき市民大学 | 2年生の課題研究概要資料配布 事務局員の説明 |
| 2 | 2/2 | きらめき市民大学 | 課題研究についての調査票提出 |
| 3 | 2/9 | きらめき市民大学 | 調査結果報告(研究したいテーマ一覧) |
| 4 | 2/16 | きらめき市民大学 | 課題研究テーマ調査(希望する研究テーマ選択) |
| 5 | 3/2 | きらめき市民大学 | グループ編成等について配布する |
| 6 | 4/13 | きらめき市民大学 | グループメンバーの修正・追加の上、一覧表配布 |
| 7 | 4/20 | きらめき市民大学 | グループ編成等一部修正配布 |
| 8 | 5/25 | きらめき市民大学 | 課題研究グループA班～D班に決まる |
| 9 | 6/1 | きらめき市民大学 | 課題研究の進め方の話し合い、テーマ決定・提出 |
| 10 | 6/22 | 校外(小川町) | 伝統工芸会館、二葉、武蔵鶴酒造、仙覚律師遺跡 |
| 11 | 7/6 | きらめき市民大学 | 集合写真撮影と今後の方向性の検討 |
| 12 | 7/29 | きらめき市民大学 | 課題原稿の各自担当グループ内調整 |
| 13 | 9/7 | きらめき市民大学 | 課題原稿各担当者持ち寄って印刷・検討 |
| 14 | 10/12 | きらめき市民大学 | 課題原稿全員で誤字・脱字等検討 |
| 15 | 11/30 | きらめき市民大学 | 課題研究原稿提出 |

3. 引用文献

- ・小川町産業観光課(2016)「和紙のふるさと『小川和紙の世界』」小川町
- ・小川町教育委員会(2010)「おがわ仙覚万葉展『万葉集』と仙覚律師と小川町」小川町
- ・織田百合子(2019)「鎌倉の万葉学者・仙覚とは誰か」『歴史研究第676号特集万葉集と新時代』歴研
- ・小川町HP「小川町内所在の指定文化財一覧」埼玉県小川町役場(閲覧2022年6月22日)
- ・おいでなせえ小川町HP「埼玉県小川町に現存する5つの国指定登録文化財」株式会社おいでなせえ(閲覧2022年6月22日)